

「ヒト」、「コト」、「モノ」を連動する「マチ」づくりを通じた多能工人材の育成

研究年度 令和3年度

研究期間 令和2年度－令和3年度

研究代表者名情報システム学部 情報システム学科 教授 吉村 元秀

1. はじめに

本プロジェクトは令和2年度から令和3年度までの2か年を計画しており、本報告書では、令和3年度の2年目の活動について報告する。長崎県は、「世界が認める観光県ながさき～ながさき観光の魅力・満足・価値の向上～」を掲げ、「観光産業の活性化・高度化」ならびに「地域と一体となった観光まちづくりの推進とそれを担う人材の育成」に取り組んでいる。2024年の開業を目指してサッカースタジアム、オフィス、商業施設、ホテルなどを開発する「長崎スタジアムシティプロジェクト」が実働する長崎。未来に向け加速度的、飛躍的に変化しようとする長崎において、まちづくりのスペシャリストの育成が喫緊の課題である。本研究は、長崎県におけるスマートシティの実現に向けて、「ヒト」、「コト」、「モノ」の連動による持続可能な観光産業をデザインする多能工人材の育成を目的としている。学生たちは、「コト」の企画、「モノ」の製作、地域の「ヒト」との協業を通して、持続可能な「マチ」づくりのためのデザインの感性とシステム化技術を有した俯瞰的視野を涵養する。令和3年度の成果を以下にまとめる。今年度は、映像制作や写真撮影など課外における学生の活動が新型コロナの第5波、第6波の影響から大きく制限されたため、一部、プロジェクトの内容を調整している。

(1) 長崎新幹線 PR プロジェクト

[内容] 九州新幹線西九州ルートの開業を令和4年9月に控え、出島メッセ長崎や長崎スタジアムシティの推進により大きく変化しようとする長崎。本プロジェクトでは、長崎県新幹線対策課による新幹線のPR事業に本学学生が参画することで、学生が長崎の未来（「モノ」や「コト」）を創造する実践の場を提供する。新幹線開業に向けた映像制作および新幹線建設現場の写真撮影などのコンテンツ制作については、新型コロナの感染拡大により、当初予定していた課外での創作活動が実現不可能となった。本プロジェクトでは、10月に諫早文化会館で開催された西九州新幹線シンポジウムの映像撮影および公開用コンテンツの制作に取り組むことで、他地域の新幹線開業における地方創生の実践について学ぶとともに、長崎の現状を知り、これからの長崎を創造する基盤形成を行うこととした。

(2) 映画制作可視化プロジェクト

[内容] 新型コロナによるニューノーマル時代とともに第5世代移動通信システム(5G)の普及推進により映像や写真を含めたメディアの在り方が大きく変化している。このプロジェクトでは、学生が学生映画（「モノ」）を創作する中で、学生映画の魅力発信

のための方策（「モノ」や「コト」）を企画・運営する場を提供する。映画制作は、新型コロナウイルスの影響から当初予定していたものよりも規模を縮小せざるを得ない状況となり、音響調整やカラーコレクションを実働させることが不可能となってしまった。本プロジェクトでは、学生映画の魅力発信の部分に焦点を据えなおすことで、プロジェクトを以下のように再調整して取り組んだ。

- (ア) 学生監督が制作した「うみねこ映画祭」の企画・運営
- (イ) 映画に楽曲を提供するアーティストのライブの上演
- (ウ) 学生映画の魅力を伝える写真展の開催

2. 長崎新幹線 PR プロジェクト

九州新幹線西九州ルート(武雄温泉—長崎間)は、令和4年9月23日(金)の開業に向け、長崎県内では、長崎駅、諫早駅、新大村駅周辺の整備が着々と進んでいる。西九州ルートの開業により、観光客やビジネス客の増加といった交流人口の拡大、西九州地域の活性化が大いに期待される。長崎県では、開業効果を最大限に高めることを目的とし、その効果を県内各地へ波及、拡大させるべく、官民一体となって取り組む「新幹線開業に向けたアクションプラン」を策定している。今年度は、新幹線開業に向けた PR 事業として以下のようなイベントが沿線地域で企画・運営されている。

1. 令和4年秋開業！西九州新幹線シンポジウム
期日：令和3年10月9日（土）
場所：諫早文化会館大ホール
2. 地域活性化シンポジウム「長崎が近づく、西九州に新幹線がやってくる」
期日：令和3年11月2日（火）
場所：JR九州ホール
3. 新幹線レールウォーク
期日：11月7日（日）
場所：諫早駅新幹線駅車内および軌道（400メートル往復）

学生の授業および課外活動の関係から「令和4年秋開業！西九州新幹線シンポジウム」に参加することとし、映像撮影および県民向けの公開用コンテンツの制作を行った。本件には、学生が2名（国際社会学科1名、情報セキュリティ学科1名）参加し、4Kカメラ2台にてシンポジウムの撮影および公開用コンテンツの制作を行った。制作したコンテンツは、以下に示す5本である。

1. 主催者（知事）あいさつ
2. まちづくりの紹介（諫早市長）
3. 講演（金沢ニューグランドホテル代表取締役社長 庄田 正一 氏）

4. パネルディスカッション（以下、パネリストの皆様）
- (ア) 金沢ニューグランドホテル 代表取締役社長 庄田 正一 氏
 - (イ) 富山国際大学准教授（元九州経済調査協会次長） 大谷 友男 氏
 - (ウ) 九州教具株式会社 代表取締役副社長 船橋 佐知子 氏
 - (エ) 諫早商工会議所青年部専務理事 吉田 俊太 氏
 - (オ) タレント 長濱 ねる 氏
5. ・トークショー（タレント 長濱 ねる 氏）

このうちの1本（講演（金沢ニューグランドホテル代表取締役社長 庄田 正一 氏））については、「nagasakipref 長崎がんばらんばチャンネル」にて公開している。以下にリンクを示す。

<https://www.youtube.com/watch?v=wZH5e0JoVUs>

以下、図 2.1 および図 2.2 に参加学生の活動の様子を示す。カメラ1で舞台上の演者を撮影し、カメラ2で舞台全体を撮影する方式とした。



図 2.1：カメラ1による撮影のようす



図 2.2：カメラ2による撮影のようす

本シンポジウムでは、北陸新幹線開業に際した金沢八家による「有るモノを磨いて、無いモノを創る」をテーマとした実践プロジェクトの説明が、金沢八家の統括リーダーである金沢ニューグランドホテル社長の庄田正一氏よりあった。また、現在の「諫早とつながる、諫早を好きになる」をテーマとした諫早市でのリンク・ライクプロジェクトの紹介が諫早市の大久保潔重市長よりなされた。新型コロナの影響により、開業に向けた映像制作および新幹線建設現場の写真撮影など学外での創作活動の部分を年度内で完了することができなかったが、参加学生は、シンポジウムで得た知識をもとに、長崎の未来を創造する PR 映像制作「長崎の未来と、人を知る ～人と人をつなぐ対談バトン in 長崎～」を企画・運営する予定である。

3. 映画制作可視化プロジェクト

近年「コンテンツツーリズム」が活発化し、旅人型観光における観光リソースとして大変

注目を浴びている。長崎県でも本学の学生が中心となって有志の方々と推進する「色づく長崎の舞台から」が企画・運営されている。本件は、長崎を舞台として制作されたアニメ「色づく世界の明日から」のロケ地巡礼を推進するものである。以下に Web サイトの URL を示す。

色づく長崎の舞台から Web サイト

<https://sun.ac.jp/prof/yxsimura/iroduku/>

また、長崎県では、長崎県観光連盟内部の一団体として、長崎県フィルムコミッションが存在しており、長崎県での映画や CM の撮影やアニメーション制作への精力的な協力を行い、コンテンツ制作の誘致を行っている。近年で映画撮影の誘致を行った映画として「くちびるに歌を(2015年)」、「母と暮せば(2015年)」、「こはく(2019年)」、「最高の人生の見つけ方(2019年)」などが挙げられる。また、長崎県立大学シーボルト校学生自治会公認サークルである映画研究会 SeaCaT 制作「あいかわらずの」、「しらあいの赦」、「少年少女」、慶應義塾大学有志学生制作「魚になる夢を見た」など多くの学生映画が制作されている。

本プロジェクトでは、新型コロナウイルスの影響から当初予定していたものよりも企画を縮小せざるを得ない状況となり、映画制作における音響調整やカラーコレクションの実働が不可能となってしまったが、映画のポストプロダクションの部分に焦点をあてることで、学生映画の魅力発信の方策に取り組むようプロジェクトの内容を以下のように再調整した。

(ア) 学生監督が制作した「うみねこ映画祭」の企画・運営

学生映画の周知と停滞する文化芸術業界の再生を目的として、学生映画の魅力を伝える「うみねこ映画祭」を開催する。長崎県では初となる学生による学生のための映画祭である。

(イ) 映画に楽曲を提供するアーティストのライブの上演

学生映画の魅力をより幅広く伝えることを目的として、映画に楽曲を提供するアーティストのライブを開催する。

(ウ) 学生映画の魅力を伝える写真展の開催

学生映画の魅力をより深く感じてもらうことを目的として、映画制作にかける学生たちの想いを可視化する写真展を開催した。

3.1 学生映画祭の企画・運営

映画研究会 SeaCaT では、これまでに7本の長編・中編・短編映画を制作しているが、新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度は構想していた中編映画の制作を中止せざるを得ない状況となった。全国でもスポーツや文化、芸術に関するイベントが中止・延期され、それらに関わる公共の施設が閉鎖されることとなり、人々の感性や創造性が抑鬱される状況となっている。そこで、映画研究会 SeaCaT のメンバー有志が中心となって GYO 制作委員

会を立ち上げ、学生による学生のための映画祭「うみねこ映画祭」を開催する運びとなった。本映画祭では、学生監督の作品を全国から募集、コンテスト形式にて受賞作品（うみねこ賞、監督賞、脚本賞）を選定するだけでなく、映画に楽曲を提供するアーティストのライブや学生映画の裏側を伝える写真展も併催することとした。当初は、長崎県美術館のホールで有観客にて映画祭を開催し、同時に YouTube ライブ配信を行うハイブリッド方式での開催を予定していたが、新型コロナの第6波の感染拡大により、本学大講義室において無観客での YouTube ライブ配信のみとして開催した。当初は、アーティストライブおよび学生映画の魅力を伝える写真展を映画祭本番に向けたイベントとして開催する予定だったが、新型コロナの影響により、これらをまとめたイベントとして YouTube ライブ配信を行った。

3.2 うみねこ映画祭の企画

ここでは、映画祭の企画内容について説明する。まずは、企画概要を表1にまとめる。うみねこ映画祭は、映画制作に力を注いでいる全国の学生たちが交流するための学生による学生のための映画祭であるとともに、一般の方々に学生映画の魅力を知ってもらうことを目的とする映画祭である。

表 3.1 映画祭の企画概要

映画祭名	うみねこ映画祭
期 間	令和4年1月30日（日）
場 所	長崎県立大学シーボルト校大講義室
開催方法	YouTube ライブによるオンライン配信（無観客）
目 的	学生映画の周知と停滞する文化芸術業界の再生
プログラム	1. 映画上映（最終選考にノミネートされた5作品の上映） 2. アーティストによるライブ 3. 5作品の監督による対談 4. 5作品の映画制作の裏側を伝える写真展 5. 授賞式

3.3 映画祭の周知および応募、選考について

より多くの学生の交流を促進するため全国の映画制作に関係する大学のサークルや団体、専門学校の関係者などに作品の応募について周知するとともに、Web サイトの開設、Twitter および Instagram による情報発信を行った。この取り組みにより全国から30余りの学生監督映画の作品応募があった。

表 3.2 映画祭の広報用 SNS リスト

Web サイト	https://www.umineko-filmfestival.com/
Twitter	@umineko_movie
Instagram	umineko_movie

本映画祭では「うみねこ映画祭チャンネル」を開設し、映画祭の広報を行うとともに、映画祭広報用のショートムービーを制作、公開している。チャンネル URL を以下に示す。

うみねこ映画祭 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCXOWYIYIfYrYA0c0MRdIXX7g/>

この映画祭は、一般の方々に学生映画の魅力を伝えることも目的としており、映画祭ポスターおよびリーフレットを作成し、市内各所で配布した。映画祭の告知に際して、NCC 長崎文化放送にご協力いただくとともに、長崎新聞より取材をしていただいた。学生出演にて映画祭の告知をエフエム長崎でさせていただいた。各社の多大なご協力に感謝いたします。



図 3.1 映画祭広報用リーフレットの裏表

本映画祭では、30 作の応募作品から一次審査にて 10 作品を選考し、視聴者ならびに映像制作を専門とする審査員 4 名による投票を経て、5 作品を最終選考にノミネートしている。一次審査に入選した 10 作品の予告編映像を表 3.3 にまとめる。一次審査は、映画祭を運営する GYO 制作委員会の構成メンバーである大学生 13 名により選考を行っている。

表 3.3 一次審査入選作品とその予告編 URL リスト

一次審査入選作品名	予告編 URL
明け方に薫る僕、黄昏に咲いた君。	https://youtu.be/_1Wg7lua2J4
ヴィスコンティに会いたくて	https://youtu.be/A_96qwM9mbs
浮かぶかたつむり	https://youtu.be/moi8ye2afRc
帰路	https://youtu.be/FMR5ONlgpLA
こわす。	https://youtu.be/SGOb8p94IEs
辻占	https://youtu.be/-aXeqYw7e6M
飛べなかった燕	https://youtu.be/8Maix1DIUA
ナナサン	https://youtu.be/w-nj4SNkuR4
枇杷のなる山	https://youtu.be/MFfS8zuoESI
みんなバカ野郎だ	https://youtu.be/Za33XpH8Wjs

投票の結果、これらの中から「飛べなかった燕」、「浮かぶカタツムリ」、「こわす。」、「明け方に薫る僕、黄昏に咲いた君。」、「ナナサン」の 5 作品が最終選考にノミネートされた。「明け方に薫る僕、黄昏に咲いた君。」は、映画研究会 SeaCaT が制作した映画（監督：栗林

友美)である。ここで審査員の方々を表3.4にご紹介する。本映画祭では、これまで映画祭の運営や映画制作の現場など学生を指導された経験のある方々に審査員をお願いしている。お忙しい中、ご協力いただいた審査員の皆様方には、ここに感謝の意を表します。

表 3.4 うみねこ映画祭審査員

審査員	略歴
プロデューサー・脚本・監督 志岐誠	2012年、(株)佐世保映像社を設立。プロデューサー・脚本・監督だけでなく、渋谷と佐世保の街を繋ぐ「渋谷TANPEN映画祭 CLIMAXat 佐世保」において主宰を務める。
映画監督 横尾初喜	2017年映画『ゆらり』で商業映画監督デビュー。主な監督作品として、『こはく』『達人 The master』『スキャンダル専門弁護士 QUEEN』(ドラマ)などがある。
映画監督・脚本 高村剛志	映画、ドラマ、CMなど多くの分野で活躍。「そんな愛のはなし」は、48hour film project 2014 in Osakaで優勝、2015年にはアメリカ・ハリウッド チャイニーズシアターとフランス・カンヌ国際映画祭にて上映された。
照明技師 長沼修二	照明技師として映画、TV、CM、MVなど多くの分野で活躍。2004年からフリーランスで活動 2013年から Adachi 学園専門学校九州ビジュアルアーツの講師を務める。主な参加作品として、映画「夏至るころ」、「糸」などがある。

3.4 アーティストライブの上演

映画制作には、その映画のテーマ曲や挿入曲を提供するアーティストの存在が欠かせない。本映画祭では、学生映画の魅力をより幅広く伝えることを目的として、学生映画の制作趣旨に賛同し、そのイメージに沿った楽曲を提供してくれたアーティストのライブを上演している。当初はアーティストの生ライブを配信する予定だったが、新型コロナの関係から事前に収録したライブ映像を配信する形式とした。うみねこ映画祭では、パノラマとラボラトリーのきみのふうか氏にライブを上演いただいた。きみのふうか氏には、SeaCaT制作「明け方に薫る僕、黄昏に咲いた君。」にて楽曲を提供いただくとともに、新型コロナの影響から制作中止となった作品でも楽曲を提供いただいた。さらには、本映画祭の趣旨にご賛同いただき、テーマソングの制作もご協力いただいた。日々変化する新型コロナの状況下において、これら楽曲をご提供いただいたこと、また、映画祭におけるライブ映像を収録、ご提供いただいたことに深く感謝いたします。

3.5 学生映画の魅力を伝える写真展の開催

学生映画の現場は、映画制作に関わる役職である、プロデューサーや監督、演出、撮影、録音、照明、美術、衣装などすべて学生が役割分担し、企画立案から脚本制作、ロケーションハンティング、キャストオーディション、撮影、広報、上映といったプリプロダクション、

プロダクション、ポストプロダクションを半年から1年かけて進めていく。そこには、関わる学生たちの様々な思いがあり、映画制作にかける並々な情熱がある。本映画祭では、学生映画制作の現場を可視化することで、学生映画の魅力をより深く感じてもらうことを目的として、学生の思いや情熱を伝える写真展を開催した。当初は、長崎県美術館の講座室にて、映画制作の現場で使用する器材などの展示物とともにスタッフや出演者の撮影現場でのようすを撮影した写真を展示する予定であったが、新型コロナの影響から最終選考にノミネートされた5作品の監督から提供された写真と思いを映像化したショートムービーを制作し、その映像を配信することとした。リーフレットのプログラム上に記載されていないが、監督対談と授賞式の間、5作品それぞれの思いが詰め込まれたショートムービーを配信している。

3.6 GYO制作委員会当日のようす

本映画祭は、GYO制作委員会が企画、運営している。委員会は、当方と学生13名（情報システム学科13名）により構成されている。映画祭当日は、現場サポートスタッフ7名（情報システム学科3名、情報セキュリティ学科3名、国際社会学科1名）を加えたスタッフと司会者2名にて映画祭を運営した。映画祭の司会をお願いしたお二人を以下の表3.5に示す。お二人の司会により映画祭の楽しさを視聴者に伝えることができるとともに、映画祭の厳かな雰囲気もしっかりと演出できたと感じている。お二人に深く感謝いたします。

表 3.5 うみねこ映画祭司会者

司会者氏名	略歴
諸國 摩耶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回佐世保観光大使 ・ NCC 感動ガール ・ 長崎県政番組「こちら県庁広報2課」 ・ 九州 NISSAN CM ・ 福太郎 THE MENTAI WEB CM ・ ほっともっと WEBCM など
塩田 みう	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニクロ CM ・ 映画「坂道のアポロン」 ・ 映画「こはく」 ・ 岩崎本舗「角煮まんじゅう」CM ・ リクルート「就職支援」CM ・ 長崎県政番組「みじかなナガサキ」 ・ ALL!V・ファーレン情報番組 など

本映画祭のライブ配信画面を図3.2および図3.3に示す。図3.2は、うみねこ映画祭の趣旨説明の場面である。図3.3は、ノミネート5作品の説明場面となる。そのあと、司会者の紹介、審査員紹介、映画祭における注意事項説明を経てノミネート5作品の説明を行い、図3.2の下部に示すように5作品の上映、ライブ、監督対談を経て、授賞式ののち、終演となる。各プログラムの間には映画祭協賛各社のPR映像を上映している。本映画祭の運営に際

して、新型コロナの厳しい状況にも関わらず、(株)岩崎食品、JTB 協定旅館ホテル連盟長崎支部、ながさき稲佐山観光ホテルの皆様にご協賛いただき、ここに深く感謝いたします。

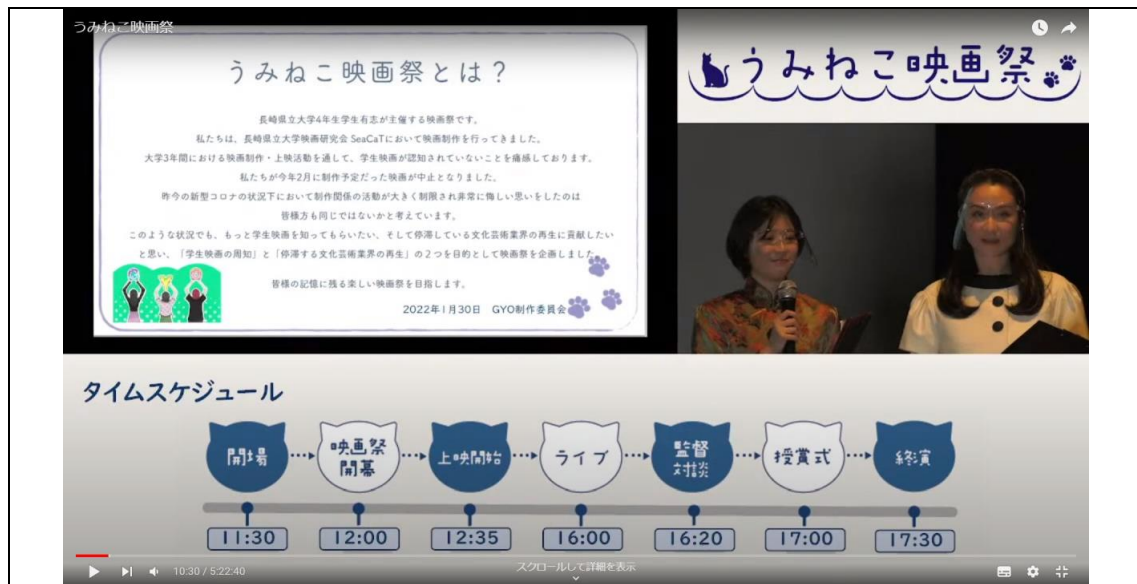


図 3.2 ライブ配信画面／うみねこ映画祭趣旨説明場面



図 3.3 ライブ配信画面／ノミネート5作品説明場面

本映画祭は、新型コロナの第6波の影響により会場を急遽長崎県美術館から長崎県立大学シーボルト校に変更することとなった。準備に際してライブ配信のテストおよびリハーサルにご協力いただいた長崎県美術館ならびに急な変更にもかかわらず会場使用を快くお認めいただいた長崎県立大学シーボルト校総務課および学生支援課の方々に深く感謝いたします。また、本映画祭の開催にあたり、多大なご協力をいただいた渋谷 TANPEN 映画祭 CLIMAX at 佐世保を統括されている(株)佐世保映像社代表取締役の志岐誠氏に深く感謝いたします。

4. おわりに

今年度は、「長崎新幹線 PR プロジェクト」と「映画制作可視化プロジェクト」に対して、多くの学生が積極的に参加し、新型コロナの感染の影響下にあっても、しっかりとした成果を得ることができた。本研究は、長崎県におけるスマートシティの実現に向けて、「ヒト」、「コト」、「モノ」の連動による持続可能な観光産業をデザインする多能工人材の育成を目的としている。学生たちは、「コト」の企画、「モノ」の製作、地域の「ヒト」との協業を通して、持続可能な「マチ」づくりのためのデザインの感性とシステム化技術を有した俯瞰的視野を涵養することができた。九州新幹線西九州ルートの開業も含め、新たな長崎県の創造・実現に向けて、「ヒト」、「コト」、「モノ」の連動による持続可能な観光産業をデザインする多能工人材の育成を果たすことができたと考えている。「長崎スタジアムシティプロジェクト」が実働し、未来に向け加速度的、飛躍的に変化しようとする長崎において、本プロジェクトにおける実践的なまちづくりの現場に多くの学生が挑み、課題の解決に取り組んでくれたことに感謝する。これらの学生たちが今後の長崎のまちづくりにおけるスペシャリストになってくれることを期待している。今後は、新型コロナの影響により変更を余儀なくされた部分についての研究を推進すべく、地域に密着した長崎の未来を創造する学生協働型プロジェクトを推進する計画である。